

令和四年度 第四回串本町短歌大会入賞作品

特選

○ 畦道を幼き頃が駆けて来て八十路の盆がまた一つ行く
岩本政明

○ 意識なき兄に声掛くライン文「削除」決めたり三年忌経て
津田ちあき

○ 見納めと云いつつ三年訪れて散りゆく花の潔よくゆく
小山節子

秀作

○ 幸せな人生だったかと問えばまた短歌ですか早く寝なさい
樋口勉

○ 盆送り流れの強き富田川精霊舟を待つばあちゃん子
岡田敏朗

○ 廃校を今も見守る和深富士消えて久しき生徒の姿
嶋村豊樹

○ 玄関の飼育ケースの鈴虫の声のころがり続ける夜更け
白藤巳玲

○ 旧姓に呼び止められし方向へ三十五年遡る道
奥澤典子

- 青空の青が降るよな径ゆけば負蝗虫が草穂をつかむ
西村良子
- 満州の父より届きし絵はがきの記憶はかすか赤き風船
米津りつ枝
- もて余す若き弾かせ超ミニのスカートが行く キラキラと春
森悦子
- 喜寿迎え吾の来し方良しと決む叶ひし夢も叶はぬ夢も
上田明子
- 「ありがとう」一生分をひと月で言ひし夫は永遠とわに旅立ち
堀口和子
- 月と日は橋杭岩を渡りゆく未来の町にロケット飛ぶか
北野惣一
- 点検の防災袋の底辺より亡夫の薬の出でて手の止む
田中掬代
- ありがとうと今ならいっばい言えるのに言えず逝きたる父母恋し
田林和子
- 子の継がぬ茄子のハウスに喜寿の兄「今年で終わる」と去年も言いぬ
登地道子
- 毬いが燃す白き煙が山峡の淡き光に溶けあひて秋
籠田くみよ